

第3ステージ「学校評価の4点セット」(例)

学校の教育目標を、「自ら課題を見つけ、仲間と協働しながら課題に取り組む児童の育成」とした場合

育成を目指す資質・能力： 問題発見・解決能力、協働性

重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標 (誰が、何を、どのくらいの頻度で)
【知識及び技能の習得】 「分かる・できる」を実感する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元末テストで40点未満の児童を0にする。 ○ 体力調査の8割の項目で県平均を下回る児童の割合30%以下 	学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 習熟度に応じた指導 ○ 運動の日常化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業者は、努力を要する児童に対する手立て(ヒントカードや補助発問等)を準備して、毎時間授業を行う。 ○ 教職員は、週一回の「モリモリタイム」(1校1実践)に、2回/月は一緒に運動し、一斉声掛けを行う。
		家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校での学習状況の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者は、学校での学習内容について、子どものノートを見ながら週1回以上会話する。
		地域	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習サポーターの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校運営協議会学習支援部は、放課後の補充学習に学習サポーターを6人以上確保し、児童の学習を支援する。
【思考力、判断力、表現力等の育成】 問題解決的に学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 算数の「単元振り返りシート」に、学習用語や定義等を適切に用いて「分かったこと」「役立った考え方」を記述している児童の割合80% ○ 「新しい問題に出会った時に、学習した内容を使って解決しようとしている」と回答した児童の割合80% 	学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題解決的な展開の授業 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業者は、算数科の全単元において、1単位時間の評価規準を記載した「単元プランシート」を作成する。授業者は、児童用に、学習内容と振り返りを記入する「単元振り返りシート」をA3 1枚で作成する。 ○ 全教員は、低・中・高学年部別に、互見授業を3回/年行い、単元計画や1単位時間の位置付けについて意見を述べ合う。
		家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループ読書リレーの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者は、5~6家族ごとにグループをつくり、1冊/月のペースで「読書リレー」に取り組む。読んだ感想はノートに書いて各家庭で読み合うようにする。
		地域	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活科・総合的な学習の時間への協力 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校運営協議会地域連携部は、学校地域協働活動推進員(「協育コーディネーター」)を通じて、生活科・総合的な学習の時間に、1回/学期以上、学習サポーターを派遣する。
【学びに向かう力、人間性等の涵養】 より良く生活しようとする 仲間と協働して	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「友達の意見のよさを取り入れながら行動している」と回答した児童の割合80% ○ 「児童は、家庭での仕事(役割)を欠かさずに行っている」と答えた保護者の割合80%以上 	学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人間関係形成プログラムの実践 ○ 授業内で児童の共感的人間関係を育む 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級担任は、「人間関係づくりプログラム」を週に1回以上、朝や帰りの学活で行うとともに、全教職員による1時間程度の研修を学期に1回以上行う。 ○ 校長は、児童の発する「ことば」に着目しながら全授業者の授業観察を毎日行い、生徒指導の3機能を意識した必要な助言を行う。
		家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭内での役割の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者は、家庭での仕事(役割)を子どもと一緒に設定し、月1回、できているかどうか子どもと振り返りを行う。
		地域	<ul style="list-style-type: none"> ○ 挨拶と温かい声掛けの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校運営協議会環境整備部は、登下校時の児童に対する挨拶と温かい声掛けを毎日行う。
【働き方改革の推進】 ICTを活用し、校務を効率化する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校務の見直しにより一人あたり10時間以上/月の授業準備や事務処理の時間を新たに生み出す ○ 学校内・家庭との連絡にかかる紙や時間などの機会費用を年間30%削減 	学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 会議資料の事前共有 ○ 授業準備にかかる時間の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教頭や教務主任は、会議資料を必要最小限とし事前配布を行うことや、資料の事前配付で代替できる会議を廃止するなど、会議に要する時間を削減する。 ○ 毎週木曜日の15:45~16:45に、「授業準備タイム」を設定し、学年部全員で教材作り等を行う。
		家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校ホームページの掲示板の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者は、学校のホームページを週1回確認する。 ○ 保護者代表は、学校の取組や学校のホームページの内容について、年3回以上、学校運営協議会等で熟議する。
		地域		<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の代表者は、学校の取組や学校のホームページの内容について、年3回以上、学校運営協議会等で熟議する。